



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.11

No.367

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O

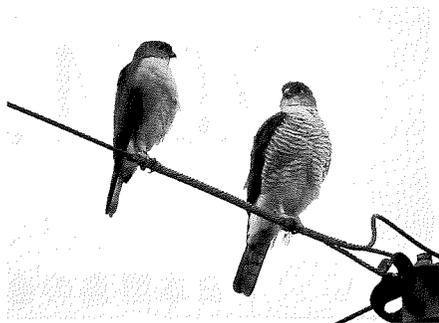


我が家から見た ツミの生態 ～3ヵ年観察のまとめとして～

田中幸男(蓮田市)

はじめに

ツミが3年続けて飛来し、その生活と子育ての場が、我が家から見える場所でしたので、その生態を毎日見る機会を得ることができました。毎年記録を記しましたので、その概要を報告します。



① ツミのつがい (大きい方が♀)

飛来場所は駅近くの住宅街で、樹木も多く、多種の野鳥も飛来し、営巣もしています。

今年のツミの営巣木は住宅際にあるサクラの木で、巣の下は車・人の往来が多く、「こんなところに…」と思われる場所です。

ツミ夫妻の様子

ツミ夫妻は我が家前の東西にあるクスノキとシダレザクラなどが「逢引き」「食堂」「休憩」「巣材調達」など生活の場になることが多く、お気に入りの場所になっております。ツミは同じ場所で長時間過ごすことが多く、その行動範囲はあまり広くないようです。

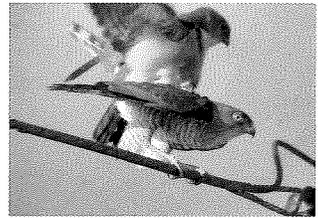
ツミは雌雄ともよく鳴いてくれ、飛来の合図となり、生活しながら見ている者にとっては助かりました。

ヒナの巣立ちまでは先ず♂が飛来することが多く、すぐに大きな声で鳴きます。声は縄張りや威嚇だけではなく、雌雄の意思伝達の機能が多いようで、特に♂が獲物を捕獲し鳴くと、♀が飛来し獲物を受け取り、採餌しはじめます。

抱卵前、♀の採餌中に♂はチャンスとばかりに繁殖行動に移ることが多く、目撃しただ

けでも13年10回、14年8回あり、抱卵までその回数は相当になっていたと思われ

ます。その行動において、♂は足で♀の翼をしつか



② ♀の羽を傷つけないように…りと抑え込み安定感を保っておりましたが、傷つけないよう爪はたてては

いませんでした。狩りの獲物は小鳥、中でもスズメが多かったですが、ツバメやコウモリもありました。

♂は獲物を置いてゆくこともありますが、それを狙うのがオナガで、ツミの周りに多くのオナガが集まることが頷けます。♂も♀も翼や尾羽を大きく広げ、時に脚を伸ばし、「羽づくろい」するところをよく見かけます。その「羽づくろい」を雨の中



③ ツミ(♀)の雨浴び

雨の中であるところを見かけましたが、目的は野鳥の水浴び・砂浴びと同じで、寄生虫の駆除だったのでしょうか。名づけて「ツミの雨浴び」。この行動は幼鳥でも見られ、土砂降りの雨でびしょ濡れとなってもやめないのには驚きました。

抱卵中、♀は抱卵、♂は狩りと役割分担し、

♀はほとんど巣に居て、♂は狩りに精を出し、♀の分も獲っていました。

子育てとヒナの様子

孵化は♀親のヒナへの給餌行動が始まったことで判断しましたが、孵化後の親は餌運びで忙しくなります。その忙しさはヒナが大きくなるにつれて増してゆきました。観察できた巣での給餌行動の最高は13年7回(ヒナ5羽)、14年4回(ヒナ3羽)あり、観察していない分を考えると相当の回数になっていると思われます。それを賄う獲物が居る環境がツミの子育てには必要となりますが、近くで賄っていたようでした。

ヒナの成長は早く、今年の場合の1羽は10日で眼が開き、12日で新たな翼と尾羽が生え、14日で羽ばたきをはじめ、19日で白かった羽が黒っぽくなり腹部に模様も現れ鷹らしい風貌となってきました。この時期になると他のヒナも大きくなり、動き回るので巣が手狭になり、巣から落ちる心配が出てきます。13年では5羽のうち3羽が落ち、死んでしまいました。

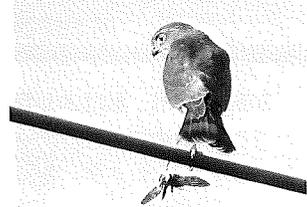
今年も2羽落ちましたが、幸い2羽は生き延びてくれました。たまたま落ちたヒナ1羽を観察しました。ヒナはまだ飛べず、巣から落ちた後、歩いて、あるいは木々を伝わるなどして、我が家前まで到達したようで、その距離30m位あります。のら猫の襲撃などが心配で、拾い上げてやろうと思いつながらも、様子を見てみると、地面のヒナは自身で安全な木の上に移動し、親はその様子を見守り、最後に親は餌やりまでしていました。その生きる力と親の本能に驚き、『ヒナを拾わない



④ 巣から落ちたヒナ

で！』キャンペーンを実体験し、その理解が深まりました。ヒナは成長するにつれ第1回目の換羽を迎えます(以後幼鳥)が、その時期と巣立ちはほぼ同時期です。

巣立った幼鳥、最初は親からの給餌を受けますが、



⑤ セミを獲った幼鳥

(ハイタカ属特有の)木々のなかを音もなく素早く飛翔する力が増すに従い、自ら狩りをするようになり、最初はセミなどの昆虫ですが、狩りの技術が増すとスズメも獲るようになりました。狩りをするようになった幼鳥の容姿は、親とほぼ同じで、遠くからだで見分けがつけづらくなりました。

幼鳥は同じねぐらとともに使い、渡去するまで変えず、その行動もほぼ一緒でした。

おわりに

3カ年の観察では、嬉しさや悲しみに浸り、感動をもらい、時には不思議さを感じました。新たな感動や発見を期待し、来年以降の飛来を願い報告を終わります。

3カ年の主な確認状況

確認事項	2014年	2013年	2012年
渡来日			
番の初認日	3月24日	3月28日	6月2日
交尾の初認	3月27日	4月23日	6月2日
抱卵開始日	5月24日	5月16日	6月16日
座込初認日			
孵化日	6月26日	6月9日	7月10日
給餌初確認日			
推定抱卵日数	5/24～ 34日	5/16～ 25日	6/16～ 25日
ヒナ初認日	6月27日	6月9日	7月19日
ヒナの数	3羽	5羽	4羽
巣立ち日	7月22日	6月30日	7月29日
巣が空になった			
推定育雛日数	6/26～ 27日	6/09～ 22日	7/10～ 20日
巣立った数	3羽	2羽	4羽
(死んだヒナ)		(3羽)	
渡去日	8月13日	7月20日	8月18日
最終確認日			
巣立ち後日数	7/22～ 23日	6/30～ 21日	7/29～ 21日

英語の野鳥図鑑の索引

海老原美夫(さいたま市)

2014年7月、私はスリランカの南部、シンハラジャ森林保護区のロッジ敷地の一角にいた。シロハラクイナ、キンバト、キマユヒヨドリ、クロヒヨドリなどが次々と現れ、インドシマヤシリスが周囲を駆け回る。おっと、初めて見る緑色の鳥が眼についた。顔は青、頭は黄色、嘴が大きく、**一見ゴシキドリの仲間のようだ**。ゴシキドリは英名「BARBET」という。

手元にある図鑑は『BIRDS OF INDIA, ~ ~』という長〜い名前で、その中にスリランカも含まれている。昔ネパールに行ったときに使ったもの。巻末の索引には、「INDEX OF SCIENTIFIC NAMES(学名索引)」と「INDEX OF ENGLISH NAMES(英名索引)」の2種類がある。図鑑によってはこの2種が一緒に混じり合っているものもあるが、この図鑑は別になっているので、少し見やすい。

日本の図鑑の場合の索引は、鳥名の最初の1文字から50音順に探していけば良いが、英語図鑑の英名索引は例えばこんな風になっている。

Tawny-breasted Wren 131	Bushchat Grey 108
Wedge-billed Wren 131	Hodgson's 108
White-browed Scimitar 130	Jerdon's 108
White-browed Shrike 134	Pied 108
White-hooded 134	Stoliczka's 108, 10
Yellow-billed 133	Bushlark Indian 137
Yellow-eyed 132	Rufous-winged 137
Barbet Blue-eared 17	Singing 137
Blue-throated 17	Bustard Great 36
Brown-headed 17	Indian 36, 10
Coppersmith 17	Little 36
Crimson-fronted 17	MacQueen's 36
Golden-throated 17	Buttonquail Barred 2
Great 17	Small 2
Lineated 17	Yellow-legged 2
White-cheeked 17	Buzzard Common 68
Yellow-fronted 17	Grey-faced, 7
Barwing Hoary-throated 134	Long-legged 68
Rusty-fronted 134	Rough-legged 68, 6
Streak-throated 134	Upland 68

「Barbet Blue-eared」とあるのは、Blue-eared Barbet のこと。次の Blue-throated とあるのは、Blue-throated Barbet のこと。つまり、Barbet の仲間ということで、まとめて記載されている。もしも英名を正しく覚えていて、その最初の文字からアルファベット順に探しても、見つからない仕組みになって



いる。(ただし、他に仲間となる名前のない種の場合は、文字通りのアルファベット順になる。)

ここで、最初の「一見、〜の仲間のようだ」という感覚がとても大事になってくる。ある程度どんな鳥のグループがいて、そのグループの英名が何なのか覚えていないと、巻末の英名索引も利用できない。

まあ、図鑑をぱらぱらめくって、似たような鳥の写真やイラストに出会ったら、その辺を探せばいいのだから、あまり難しく考えることもないのだけれども、ある程度分かっていた方が早いことは間違いない。

日本の図鑑の場合もそうだと思う。例えばこの鳥は〜の仲間(〜属)だろうと感ずるのが、図鑑を調べる最初の一步になる。

この英名索引に慣れるのは、海外に鳥見に出かける時だけではなく、例えば世界のカモの図鑑『WILDFOWL』、世界のシギ・チドリ類の図鑑『SHOREBIRDS』を調べたりする時にも大切になってくる。

ところで、最初のゴシキドリの仲間はどうか。Barbet の仲間の所には、「17」という数字がある。これはページ数ではなく、図版(PLATE)の番号。PLATE 17のあるページを開いて見れば、ああ、この鳥、「Yellow-fronted Barbet」。なんとスリランカの固有種だ。直訳すれば、キビタイゴシキドリかな。

英名から日本名を調べるのはまた別の作業になるが、私がよく参加する海外バードウォッチング ツアーの場合は、ありがたいことに旅行社の方で、英名・日本名を併記したリストを毎回作ってくれる。

それをたどると、日本名「キビタイゴシキドリ」、おっ、いい加減に言ったら、ぴったり当たっているじゃないか。



野鳥情報

さいたま市桜区上大久保 ◇8月20日、マンションに囲まれた調整池の8羽のカルガモの幼鳥は、親の半分位の大きさに育ったこの時点で、僅か3羽しか見られなくなった。容姿こそ親そっくりの若鳥になったが、鳴き声はまだ囁くようなピーピー声（大塚壮一・純子）。

さいたま市西区・桜区の鴨川 ◇8月22日、島根橋～在家橋間でヒヨコより少し成長した位の幼鳥2羽を連れたカルガモ1羽。1週間程前、同地点の水路から出てきた親子（『しらこぼと』10月号野鳥情報）と同一であれば1羽減ったことになる…。秋の気配とともに白いサギ類が増えた。嘴全体が黄色のダイサギ1羽、コサギ6羽など。オオヨシキリ、アシの葉陰でぐずる。8月31日、大久保領家学校橋付近でマガモ♀1羽、遙か下流から泳いで来てカルガモ3羽と合流。近くにアイガモ1羽と翼に異常のあるカルガモ1羽、オナガガモ♀エクリプス1羽、チュウサギ2羽など。9月4日、藤橋上流、植田谷堰のすぐ下でカイツブリ成鳥2羽。並んで白く泡立つ波に揉まれながら約2mの高さの堰から飛沫をあげてザーザー落下する滝に向っていた。近くでカルガモ5羽が採餌。ダイサギ1羽、コサギ1羽。堰右岸のコンクリート上でカルガモ3羽、イソシギ1羽が昼寝。9月17日、在家橋下流の中州でオナガガモ♀エクリプス1羽、当地で夏を過ごしたこのカモに、翼の不具合が判明。道理で渡去できなかった訳だ。近くにコガモ♀エクリプス1羽。同日夕方、植田谷本学校橋上流、関沼付近のアシ叢にゴイサギファミリー？ 芋づる式に次々と見つかり、成鳥3羽、若鳥3羽。他にカイツブリ成鳥1羽、幼鳥1羽。川は澱んで所々にアオコが発生。9月19日夕方、根切橋～藤橋間の小さな堰の下でヒドリガモ♀エクリプス1羽、岸伝いに草の葉などを採食。このヒドリガモは、ここ半月余りの間は植田谷堰より上流、時には、水判土の堀の内橋

付近まで遡上していたのでここで見るのは久しぶり。他にカルガモ8羽、コガモ♀エクリプス1羽、バン2羽（大塚壮一・純子）。

北本市石戸宿 ◇8月30日昼頃、サシバ、30m位上空を舞った（本多己秀・久文字）。

さいたま市岩槻区と蓮田市の境 ◇8月31日、渡りのサシバ3羽確認。この他にもう1羽、近くの森からカラスに追い立てられて飛び出す。低空飛行しカラスを振り切って建物の後ろへ回り込む。この個体は渡らずに、この辺で滞在を続けるつもりかもしれない（小林みどり）。

春日部市倉常 N36.0219 E139.7890 ◇9月5日、コチドリ37羽、イソシギ2羽、タカブシギ2羽、トウネン1羽。他に、モズ高鳴き（長嶋宏之）。

鳩山町の鳩川 ◇9月6日午前10時40分頃、今季初めてクサシギ1羽＝下写真。近くの稲刈りが終わった田んぼでは、アオサギ1羽、ハシボソガラス数羽が採餌していた（小島 實）。



蓮田市西城沼公園周辺 ◇9月6日、サシバ2羽、シジュウカラの巣立ち雛6羽とコゲラ2羽の混群。9月9日、5羽のタカ柱、オオタカとサシバのようだ。9月11日、サシバが屋敷林の梢に止まっていた。エナガ5羽、カワセミ2羽。9月16日、ハシボソガラスの巣立ち雛5羽と一緒に行動。コゲラ1羽、アオサギ1羽。9月18日、サシバ1羽、エゾビタキ3羽が枯れ木の天辺でフライキャッチ。近頃ヒヨドリの声が大きくなった。9月21日、コムドリ100羽+の群れ、コサメビタキ2羽、オナガ3羽、カケス2羽、アカゲラ1羽。9月23日、エゾ

ビタキ3羽、エナガ2羽、オナガ1羽、コゲラ2羽、アオサギ1羽、カッコウの仲間1羽。9月27日、種名が解らない大きなタカが突然、目の前を通り過ぎた。エゾビタキ1羽、カケス1羽（長嶋宏之）。

川越市伊佐沼 ◇9月9日、半袖では少々肌寒さを感じる時期となった。いつから入っていたのかコガモ23羽、今季初認です。その他定番のセイタカシギ8羽、たくさんのサギたちの中には、ほとんどアマ色ではないアマサギも確認（石塚敬二郎）。

蓮田市馬込 ◇9月10日午前中、ツミ♀。9月12日午前8時30分、ツミ。9月13日夕方、オオタカ、ケヤキの木で鳴く（本多己秀・久文子）。

鴻巣市大間一丁目 ◇9月13日午前10時20分頃、車を洗っていて、西の空にハチクマを2羽発見。ゆっくり一直線に南東方向へ、見えなくなる。当地では今季2度目の目撃（榎本秀和・みち子）。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇9月13日午前11時頃、サンコウチョウ1羽、盛んに虫を捕えて食べていた。独特の鳴き声が聞こえたので見つけることができた。他にコゲラ、シジュウカラ（菊川和男）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇9月14日、山田大沼でカワウ成鳥5羽、幼鳥2羽、アオサギ3羽。コガモ50羽土、今季初認。カルガモ70羽土、カイツブリ11羽、ハクセキレイ2羽、ヤマガラ1羽、シジュウカラ5羽（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇9月17日、サンコウチョウ♀1羽。他にヤマガラ、エゾビタキ、チョウゲンボウ。ツバメ、今季の終認（長嶋宏之）。◇9月28日、ツツドリが何度も姿を見せてくれた。カケスも増えてきたようだ。キビタキ♀1羽、♂もいたよと知人が話していたが、残念ながら確認できなかった。他にエゾビタキ、トビなど（菊川和男）。

坂戸市西坂戸2丁目 ◇9月20日午前7時5分、部屋で新聞を読んでいると「チッチッチィー」の鳴き声。急いで窓を開けると、窓下の葛川まん前の護岸にカワセミ。ふた

たび高い声で鳴くと、上流方向からもう1羽が飛んできて、2羽一緒になってブルーラインを引きながら、下流に飛び去る（増尾隆）。

加須市加須はなさき公園 ◇9月24日、カッコウの仲間の羽根を拾った。ツツドリの尾羽のようだ。ラッキー！他にカケス、コゲラ（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区卸町 ◇9月25日午後3時30分頃、卸売団地内の遊水池でコガモの数を数えていたところ、気になる個体が1羽、シマアジではないかと思い、翌日、再度確認に行き、間違いないと分かる。他にコガモ10羽十、タシギ2羽、バン1羽、カワセミ1羽、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ（菊川和男）。

川口市行衛 芝川第一調節池 ◇9月27日午後4時頃、シラサギ(種類わからず)80羽土、北東方向から飛来、池にはオオタカ若鳥2羽、なかなか下りられず。渡りの途中かな。他に10日ぐらい前からミサゴ1羽（野口修）。

さいたま市見沼区卸町 N35. 9488 E139. 6784 ◇9月28日、久しぶりにクリ色とモザイクの羽色のドバトを見た。他にコガモ、アオサギ、ダイサギ、チョウゲンボウ、モズ（長嶋宏之）。

さいたま市中央区与野公園 ◇9月29日、恒例、通勤鳥見。抜けるような青空、タカ類でも飛んでいないかと思えばヒラヒラと2羽のカケス、その後さらに2羽。早い時期からあちこちで見かける今季、カケスの当たり年？（石塚敬二郎）。

北本市北本自然観察公園 ◇9月30日、アカゲラの声を3カ所で聞く。カケス2羽、エナガ、ヤマガラ2羽、コゲラ2羽、メジロ5羽、シジュウカラ5羽、カルガモ10羽、コガモ10羽、ダイサギ1羽、アオサギ1羽、他にツミの声、カッコウの仲間1羽（長嶋宏之）。

表紙の写真

ツル目クイナ科クイナ属クイナ

自宅近くの公園にも、時々思いがけない鳥が来てくれます。この時も、しばらく楽しませてくれました。
鶺鴒喜雄（深谷市）



行事案内



モズ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

● 予定の変更があります

先月号9ページ「今後の探鳥会予定」のさいたま市・見沼自然公園 11 月 15 日(土)が 22 日(土)に、

狭山市・入間川定例探鳥会 11 月 30 日(日)が 23 日(日)に、

志木市・柳瀬川探鳥会 11 月 23 日(日)が 24 日(月・休)に、それぞれ変更になりました。

申し訳ありませんが、これからも、確定情報として、その月の『しらこぼと』行事案内をご確認ください。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11 月 1 日(土)

集合：午前 8 時、丸山公園北駐車場。

交通：JR 高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32 発で「畔吉」下車、徒歩約 8 分。

その他の項目は、10 月号をご覧ください。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：11 月 2 日(日)

集合：午前 9 時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨急バス③番乗り場から松伏町役場行き 8:47 発で「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、植平、榎本(建)、小林(善)、佐

藤、佐野、進士、鈴木(誠)、田邊、野村(修)、野村(弘)、森下、吉岡

見どころ：県営まつぶし緑の丘公園もオープン後の工事が進み、北側の丘もだいたい高く積み上がってきました。公園内の池でカモやカイツブリを観察した後、近隣の屋敷林を散策し、冬の小鳥を探します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11 月 9 日(日)

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：榎本(秀)、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：今年は秋の深まりが早い？ ということで、冬鳥の渡来に期待が高まります。歩き慣れた雑木林にも、いつもと違う「あなたの小さな秋」が見つかるかも。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11 月 9 日(日)

集合：午前 9 時 15 分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武スカイツリー線春日部駅西口(三井住友銀行前)朝日バス③番乗り場から、春日部エミナース行き 8:41 発で「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約 7 分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、吉岡、吉安

見どころ：今年は秋の渡りが早く始まり、秋のおとずれも早かったようです。冬鳥の飛来は毎年異なり、多くなったり少なくなったりと様々。今季はどんな鳥が見られるか、楽しみです。思いがけない出会いがあるかも。バードウォッチングがてら内牧の秋を満喫してください。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：11月13日（木）

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）東武伊勢崎線羽生駅東口8:05発、南羽生駅8:22発で、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：遠くに日光連山を望む、静かな公園での平日探鳥会です。常連のヨシガモをはじめとするカモたちはもう来ているでしょうか？ 青空を背景に猛禽は飛んでくれるのでしょうか？ 楽しみです。

ご注意：帰りのバスは14:51発です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月15日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ（ご注意：駅案内担当者は、8時過ぎに北浦和東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、赤堀、石塚、楠見、小菅、新部、畠山、増田

見どころ：見沼たんぼでの鳥見ベストシーズンです。冬鳥がぞくぞくやってきますので、観察種も増えるかと思えます。初心者の方にうってつけの探鳥会です。



トビ 中間平のタカの渡り調査の時に撮影しました。大川清久(嵐山町)

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月16日（日）

集合：午前8時35分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線川越7:57発、または寄居8:04発に乗車。

担当：千島、新井、鵜飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林でカラ類の混群、キツツキ、アオジ、シメを探します。河川敷ではツグミ、セキレイ、ノスリ、チョウゲンボウも姿を見せてくれるでしょう。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月22日（土）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：浅見(徹)、浅見(健)、赤堀、工藤、小林(み)、柴野、野口(修)、山田

見どころ：見沼たんぼと染谷の雑木林で冬鳥を探します。途中休憩の旧坂東家住宅庭では、ジョウビタキが待っているかな。公園に戻れば、カモたちが出迎えてくれます。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（日・祝）

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つ

きみ荘」北側。

交通：JR 高崎線本庄駅北口から、国際十王バス 9:06 発、伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島
見どころ：秋はまもなく終わり。冬鳥も続々と到着しています。カモたちも、勢揃いとはいかないでしょうが、待っていてくれることでしょうか。昨年は、カワアイサもミコアイサも、姿を見せてくれました。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きます。足拵えはしっかりと。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月23日（日・祝）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、星、水谷、山口、山本
見どころ：今年も冬鳥たちとの再会の季節になりました。ツグミやアオジ、ジョウビタキ。まずは身近な鳥で、目と耳を慣らしましょうか。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月24日（月・振休）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、荒木、神場、佐久間、志村、鈴木(秀)、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、山口

見どころ：いよいよ冬鳥が出そろいます。今シーズンはどんな野鳥たちが柳瀬川に来てくれるでしょうか。柳瀬川の左岸、右岸をゆっくり歩き、志木市役所前の新河岸川と柳瀬川の合流点まで探鳥しながら散策しましょう。志木市役所前で解散の予定です。鳥合わせ後、お弁当を食べながら、鳥談義でもしませんか。どんな新しい出会いがあるか楽しみです。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：11月29日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36→南栗橋 7:52→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線下り大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線に乗り換え、柳生 8:06 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、茂木、山田

見どころ：カモや小鳥たちが勢ぞろいしているところです。チュウヒなどの猛禽類にも期待です。昨年は49種。今年も50種を目標に谷中湖を歩きます。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月30日（日）

集合：午前8時45分、JR 宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前9時、環境学習館前。

担当：玉井、青木、内田(克)、榎本(建)、小林(み)、田中、長嶋、菱沼(一)、菱沼(洋)、星野、吉安

見どころ：晩秋のころとなり、冬鳥たちが長旅を終えて里に帰ってきています。木立にはツグミやシメ、アシ原ではアオジやオオジュリンなどが、枯れ残った葉に隠れています。冬鳥たちとの久しぶりの再会に心おどります。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく、北側に新しく出来た“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”を利用してください（環境学習館まで徒歩1分）。

栃木県・中禅寺湖足尾松木溪谷探鳥会

（要予約）

期日：11月30日（日）

詳しくは、10月号をご覧ください。



行事報告

4月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 53名 天気: 曇

キジ カルガモ ハシビロガモ コガモ キジバト カワウ ダイサギ バン コチドリ オオタカ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ セッカ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオジ (27種) (番外: ドバト) 代用水西縁のソメイヨシノはすでに葉桜だったが、農耕地はまだまだ花いっぱい。ヒバリのさえずりが空から降り注ぎ、ホオジロも負けじとばかりに美声を響かせる。カモヤツグミは、減ってきた。その一方、畑の隅にコチドリが登場し、ツバメも時折飛び交う。それにしてもツバメって少なくなったなあ…最後に、「もし家にツバメが巣をかけたら、不潔だからと落としてしらずに、どうか暖かく見守ってください」と皆さんにお願いした。(小林みどり)

4月27日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 77名 天気: 晴

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ムナグロ コチドリ タシギ タカブシギ オオタカ コゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ ツグミ オオルリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (36種) (番外: ドバト) まず鴨川排水機場で水鳥の観察。奥の方にシギが1羽。タカブシギだった。水田地帯ではムナグロが1羽。疲れ果てているのか、近くにいても飛ばうともしない。鳥から離れるように声をかけて先へ進む。秋ヶ瀬公園の森では、エナガが、巣へ餌を運ぶ姿も見られた。エナガの巣の近くに長居しないように、皆さんにお願いした。解散後、近くを通りかかったら、巣の周りにはカメラの大砲が、ずらり。心配だったが、後日4羽のヒナが無事に巣立ったとのこと。(小林みどり)

4月29日(火、休) 東松山市 物見山

参加: 37名 天気: 曇

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ トビ コゲラ アオゲラ チョウゲンボウ サンショウクイ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ キビタキ オオルリ スズメ セグロセキレイ カワラヒワ イカル ホオジロ アオジ (29種) (番外: ガビチョウ) 野鳥の声に耳を傾けながらのハイキング。キビタキの弾むような声、イカル、アオゲラ、サンショウクイなどの声が聞こえた。森の中でひととき大きく、数も多いのはガビチョウの声だ。ウグイスとの競合が心配されているが、今年の印象ではガビチョウの方がウグイスを圧倒しているようだ。野鳥の姿をほとんど見られないまま岩殿観音に到着。オオルリの声を間近に聞きながら探鳥会を締めくくった。(中村豊己)

4月29日(火、休) シギ・チドリ類県内調査

ボランティア: 19名

青木正俊、浅見健一、浅見徹、石井智、石塚敬二郎、伊藤芳晴、入山博、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大塚純子、岡部清美、佐久間博文、柴野耕一郎、新部泰治、船木数樹、宮田美枝子、吉原早苗、吉原俊雄

5月3日(土、休) 幸手市 宇和田公園

参加: 22名 天気: 晴

キジ カルガモ コガモ キジバト シラコバト カワウ ゴイサギ アオサギ チュウサギ コチドリ トビ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (31種) (番外: ドバト) スタート早々に電柱にとまっているシラコバトを発見。全員がじっくり観察出来たと思う。チョウゲンボウは子育て真最中で、今年の雛だろろうか不思議そうにこちらを見ていた。気温が上がり歩くのが大変となってしまった。皆様、お疲れ様でした。(佐野和宏)

5月5日(月、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 43名 天気: 曇

ヒドリガモ カルガモ コガモ スズガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ ダイゼン メダイチドリ セイタカシギ オオソリハシギ チュウシャクシギ ホウロクシギ キアシギ イソシギ キョウジョシギ オバシギ トウネン サルハマシギ ハマシギ チョウゲンボウ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ エナガ オオヨシキリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (35種) (番外: ドバト) 三番瀬で潮干狩りが始まると谷津干潟にシギ・チドリがやってくる。午後の開催は大当たり。夏羽のシギ・チドリの佃煮状態が見られた。サルハマシギが近くで大サービスしてくれた。(杉本秀樹)

5月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 27名 天気: 快晴

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ スズメ カワラヒワ ホオジロ (17種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 駅前スタートのときに住宅から電線にツバメが舞い、スズメも出てきた。遠くからキジの鳴声が見えたと同時に聞こえたが、姿は見せなかった。このところ小鳥の種類も数も減っている。当日もカワラヒワやホオジロの声はあるものの数羽しか見当たらず、草むらや低木でも寂しいかぎりであった。

(茂木幸蔵)

5月11日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 37名 天気: 晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ツツドリ コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ オオヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (28種) 出発する前から、元荒川の対岸からツツドリの声が聞こえてきた。黒浜の春では初めての出現だったので興奮した。間近にいるのに動かないと見つからないコチドリの見事な保護色に感心。オオヨシキリもあちこちで大口を開けてさえずってくれた。ダイサギの中の1羽の目は素晴らしく綺麗な青色に変わっていて感

激した。ウグイスやホオジロのさえずりも聞かれて、快晴の春を満喫出来た。(玉井正晴)

5月17日(土) 『しらこぼ』袋づめの会

ボランティア: 8名

榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

5月18日(日) 栃木県奥日光 戦場ヶ原

参加: 33名 天気: 晴

オシドリ マガモ キジバト カワウ トビ ノスリ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス コガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス ヤブサメ エナガ メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ ゴジュウカラ キバシリ ミソサザイ カワガラス アカハラ コマドリ ノビタキ サメビタキ コサメビタキ キビタキ ニュウナイスズメ キセキレイ ホオアカ アオジ (39種+ヨシキリ科ヨシキリ属不明種1) 湯滝では、オシドリの姿やコマドリの囀りを聞く事ができ幸先が良い。湯川沿いではキビタキの綺麗な姿に歓声が上がる。昼食時にはミソサザイが出現。戦場ヶ原に出るとノビタキが小さい木の上でポーズを取っていた。赤沼から自然研究路に入ってオオジギを探したが見つける事ができなかった。赤沼の畑にいて、充分私達を楽しませてくれたホオアカに見送られて奥日光を後にした。(入山 博)

5月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 60名 天気: 晴

キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (23種) (番外: ドバト) 雲一つない晴天の中スタートした。早々に今月の「目玉」であるキジの雄を観察。その後もコースのいたる所でキジは現れた。屋敷林の近くではオオタカの声が聞こえ、水を張った田んぼの近くではコチドリを全員で観察することができた。暑くなってきたので通常より早めに終わりにしたが、三室の雰囲気を楽しめた。(須崎 聡)



●今年 は 2 種類 の 公 募 写 真 カ レ ン ダ ー !!



左は野鳥の会創立 80 周年記念カレンダー「未来に残したい鳥風景」通常価格 1,296 円、会員価格 1,080 円(税込)。

右はいつもの「ワイルドバード・カレンダー2015」通常価格 1,512 円、会員価格 1,296 円、埼玉だけの特別価格 1,290 円(税込)。年内に売り切れる目安の部数を仕入れられます。売り切れの場合、再仕入れはしません。お早目にお求めください。

●野鳥記録委員会委員長交代

9 月 21 日の役員会で、小林みどり 前委員長から、榎本秀和 新委員長に交代しました。

●当会公式サイト URL 変更

これまでの事務局ボランティア 1 人の管理から、IT 委員会(浅見徹委員長)の管理に移り、9 月 27 日、下記枠内の通り URL が変更になりました。当分の間、前の URL からリンクしていますが、お早目に「お気に入り」の書き換えをお願いします。

●ごめんなさいコーナー

10 月号 9 ページ 左 側 に「今後年に 3 回(3 月号、7 月号、11 月号)に 4 ヶ月予定表

を掲載したい」とあるのは誤りで、正しくは「年に 3 回(4 月号、8 月号、12 月号)」でした。

●会員数は

10 月 1 日現在 1,797 人。

活動と予定

●8～9 月の活動

8 月 27 日(水)「見沼たんぼ・さいたま市 & 市民ネットワーク」平成 26 年度第 2 回運営会議に出席。「私の好きな見沼たんぼ 2014」写真コンクール副賞として、『新山野の鳥改訂版』(野鳥の会)14 部を提供した(藤掛保司)。

9 月 13 日(土)『しらこぼと』10 月号校正(海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司)。

9 月 21 日(日)役員会(司会:柴野耕一郎、各部の報告・全国総会への出席・その他)。

9 月 22 日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』10 月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●11 月の予定

11 月 1 日(土) 研究部・編集部・普及部会。

11 月 8 日(土) 12 月号校正(午後 4 時から)。

11 月 15 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

11 月 16 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

当会 HP のリニューアルオープン。「9 月中に」という約束が果たせて、ほっと一息。でも、まだまだ発展途上です。今のところ、IT 委員会作成原稿が中心ですが、これからは皆様からのお便りを沢山載せたいと思っています。是非ぜひ参加してください。双方向情報伝達の道具として、ご活用ください。(浅見)

しらこぼと 2014 年 11 月号(第 367 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社